



現場発の 市政を



公明党

質問者 山口 恵子
中村 努

持ち時間113分

◆防災計画に女性の視点を

問 3月11日の大震災において女性の視点が欠かせないことが明らかになった。本市の防災会議に女性登用の考えは。

答 市長が必要と認め任命することができるので、女性の参画を定めていきたい。

◆学校教育環境の充実を

問 通常学級においても発達障がいなどの児童に支援が必要である。秋田市では保護者から申請のある全ての児童に対し学級生活支援サポーターが支援しているが市の方針は。

答 全ての児童にとって一人ひとり違いを認め合い平等な教育が必要。特別支援講師を小・中学校へ12人配置し、加えて支援介助員5名配置しているが今後も増員していく。

◆脳脊髄液減少症に理解を
学校内で起きる転倒、ス

ポーツによる外傷などが原因で頭痛やめまい、疲労感など様々な症状があり不登校や心因的なものと誤解されやすい。「脳脊髄液減少症」について保護者に正しい情報を提供し病気の理解と適切な対応を学校に要望したいがどうか。

答 病気について患者支援の会発行の冊子があり活用して理解を深めていきたい。

◆高齢者に安心の社会を

問 認知症の方や家族を地域や社会で支えるしくみが大切。中高生にサポーター養成の考えは。理髪店など安心して利用できるよう組合などに協力を求めているかどうか。

答 今後認知症の方は増加していくと考えられるので対応したい。サポーター養成講座を今年高校生56名が受けたが要請があれば実施したい。

◆クレームゼロ運動を

問 市民の意見や指摘に対し対応を公表する考えは。

答 信頼と期待度アップにつながる。今後公表したい。

◆ごみ処理共同化について

問 運営に係る経費や負担割合は市民のゴミ減量への取り組みが反映されるのか。

答 ラーラ松本の運営経費も含めて、市の負担割合の95%

はゴミの重さでコストが決まるので、今後さらに環境意識を高める事が市民負担軽減につながる。

◆新体育館建設について

問 市長は市民に4つの選択肢に答える様要求し、市民は苦渋の選択をした。市長も何を選択したか答えるべきでは。

答 平成26年度以降の建設を選択する。

◆規模等、前提を白紙に戻すべきではないか。

答 今後の議論では、身の丈がキーワードになる。

◆選挙体制の改善を

問 期日前投票における宣誓書は法的に必要か、内容を簡単にし事前配布はできないか。

答 法的に必要であるが内容を簡略化、ホームページや入場券ハガキに印刷し事前配布できるようにしたい。



期日前投票の手続きの簡略化

市政同志会

質問者 中原巳年男
青木博文

持ち時間113分

市民生活に 重要な課題 を優先に

◆身近な市民生活について

問 新体育館建設に関する市民要望と情報提供と現体育館についての考え方は。

答 体育振興や体力づくりのほか、広域避難施設としての期待、建設規模の問題、多額の建設費や維持管理費など財政に及ぼす影響を心配する声もあり市民への詳細情報提供の為に来年度以降、規模、建設費、維持管理費等の財政への影響などの調査を行う。現体育館については、床の老朽化など不都合もあり部分的な補修を実施しながら使用する。

問 しょじり街元気カンパニーに対し補助金や助成金などによる支援ではなく、塩尻市・塩尻商工会議所・街元気カンパニー三者による情報交換を定期的に行い収益の望める会社になるような支援策を。